

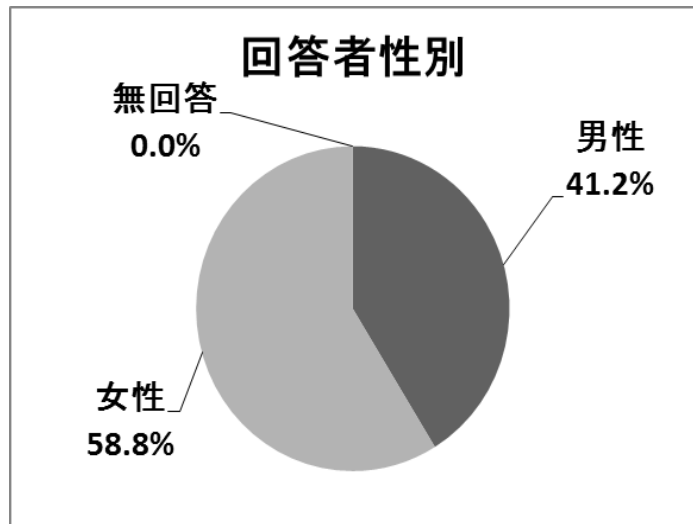
転出者アンケート調査結果の概要

【2】転出者アンケート調査

問1 性別

回答者 245 人を、男女別にみると、男性は 41.2%、女性は 58.8%、無回答は 0.0%であった。

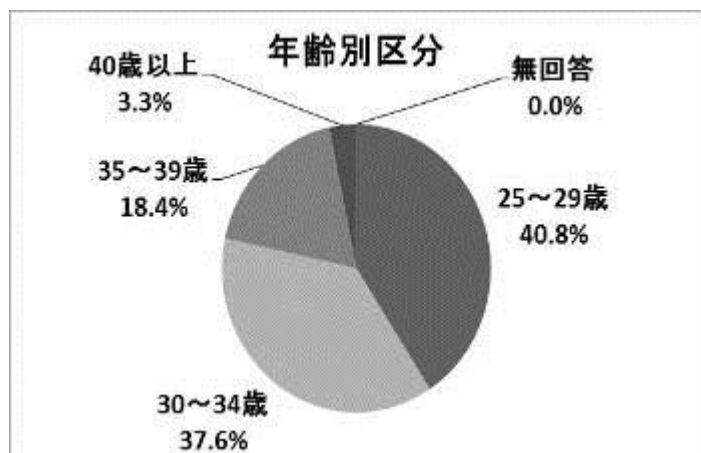
設問	選択肢	総数	割合
性別	男性	101	41.2%
	女性	144	58.8%
	無回答	0	0.0%
	計	245	100.0%



問2 年齢

回答者を年齢区分別でみると、「25～29歳」は 40.8%、「30～34歳」は 37.6%、「35～39歳」は 18.4%、「40歳以上」は 3.3%であった。

設問	選択肢	総数	割合
年代	25～29歳	100	40.8%
	30～34歳	92	37.6%
	35～39歳	45	18.4%
	40歳以上	8	3.3%
	無回答	0	0.0%
	計	245	100.0%

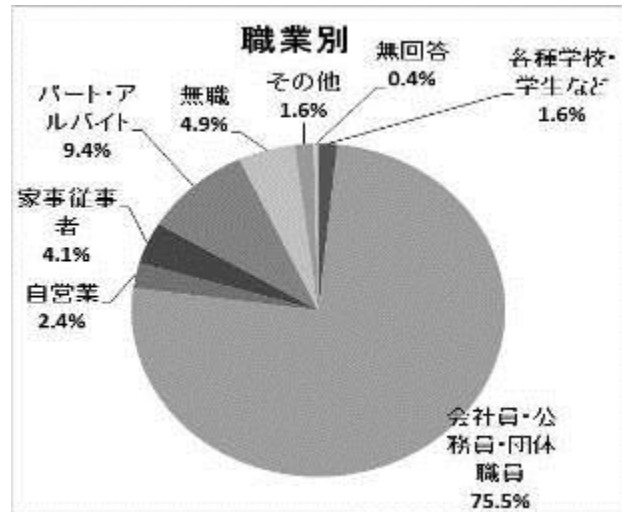


【2】 転出者アンケート調査

問3 職業等

職業別にみると、「会社員・公務員・団体職員」は75.5%で最も高い割合となっている。

設問	選択肢	総数	割合
職業	各種学校・学生など	4	1.6%
	会社員・公務員・団体職員	185	75.5%
	自営業	6	2.4%
	家事従事者	10	4.1%
	パート・アルバイト	23	9.4%
	無職	12	4.9%
	その他	4	1.6%
	無回答	1	0.4%
	計	245	100.0%



問4 同居の子ども的人数

同居の子ども的人数別にみると、「1人」と答えた方は24.1%、次いで、「2人」7.8%、「3人」0.4%、「4人」0.4%となっている。また、「子どもはいない」と答えた方は67.3%であった。

同居の子どもがいる方は合わせて32.7%であった。

設問	選択肢	総数	割合
同居の子ども的人数	1人	59	24.1%
	2人	19	7.8%
	3人	1	0.4%
	4人	1	0.4%
	5人以上	0	0.0%
	子どもはいない	165	67.3%
	無回答	0	0.0%
	計	245	100.0%

設問	選択肢	総数	割合
同居の子ども有無	子どもがいる	80	32.7%
	子どもはいない	165	67.3%
	無回答	0	0.0%
	計	245	100.0%

【2】 転出者アンケート調査

問5 子どもの年代別 (※複数回答可)

問4で子どもがいると答えた方のうち、子どもを年代別にみると、「就学前」は91.3%、「小学生」は10.0%、「中学生」は1.3%であった。調査対象の年代を25歳から39歳としたことから、就学前の子どもの割合が高い結果となったと考えられる。

設問	選択肢	総数	割合
同居の子ども(※複数回答)子どもの人数回答者が母数	就学前	73	91.3%
	小学生	8	10.0%
	中学生	1	1.3%
	高校生	0	0.0%
	専門学校・短大・大学・大学院など	1	1.3%
	既に学校教育終了	0	0.0%
	その他	0	0.0%
	無回答	1	1.3%
	計(回答総数)	84	-
	回答者数(子どもがいる方)	80	

問6 転出前の平塚市の居住地区

平塚地区が22.0%で最も高く、次いで、海岸地区20.0%、大野地区19.6%、旭地区14.3%と続いている。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方の地区別割合は、海岸地区で23.8%と最も高く、次いで、平塚地区18.8%、大野地区16.3%と続いております、「子どもはいない」方の地区別割合は、平塚地区が23.6%で最も高く、次いで、大野地区21.2%、海岸地区18.2%と続いている。

設問	選択肢	総数	割合
転出前居住地区	海岸	49	20.0%
	平塚	54	22.0%
	大野	48	19.6%
	豊田	5	2.0%
	城島	4	1.6%
	岡崎	6	2.4%
	金田	7	2.9%
	神田	13	5.3%
	金目	14	5.7%
	土沢	7	2.9%
	旭	35	14.3%
	無回答	3	1.2%
計	245	100.0%	

子ども有(N=80) 子ども無(N=165)



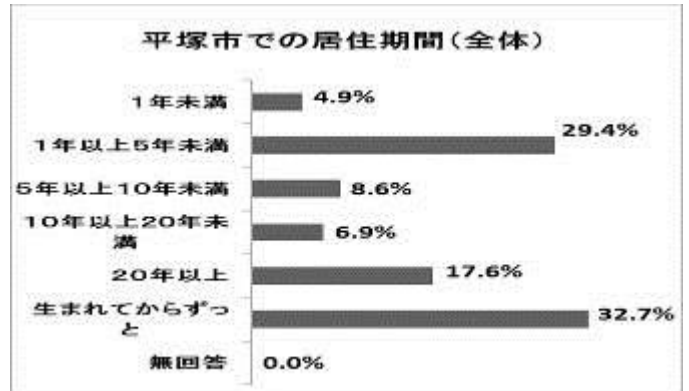
【2】転出者アンケート調査

問7 転出までの平塚市での居住期間

「生まれてからずっと」が32.7%で最も高く、次いで、「1年以上5年未満」が29.4%、「20年以上」が17.6%で続いている。

また、10年以上居住している方が全体の57.2%、5年未満で転出となった方は全体の34.3%であった。

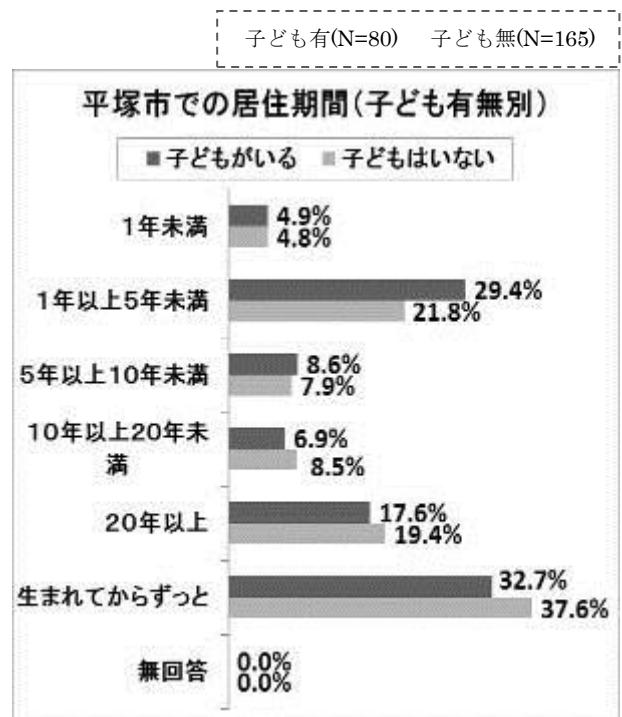
設問	選択肢	総数	割合
居住年数	1年未満	12	4.9%
	1年以上5年未満	72	29.4%
	5年以上10年未満	21	8.6%
	10年以上20年未満	17	6.9%
	20年以上	43	17.6%
	生まれてからずっと	80	32.7%
	無回答	0	0.0%
	計	245	100.0%



男女別にみると、女性で「生まれてからずっと」と答えた方は36.8%で、男性26.7%よりも高い割合であった。

子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、10年未満の居住が42.9%で、「生まれてからずっと」、「20年以上」をあわせた平塚市に長く居住した方の割合は50.3%であった。

「子どもはいない」方は、10年未満の居住が34.5%であり、「生まれてからずっと」、「20年以上」をあわせた平塚市に長く居住した人の割合は57.0%と高い割合を示している。

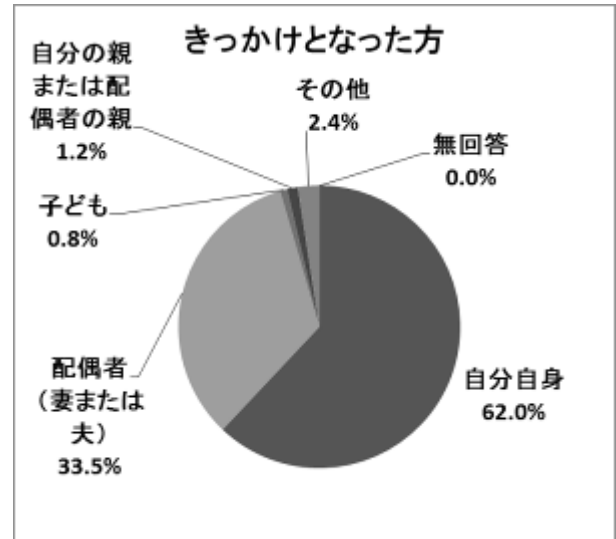


【2】転出者アンケート調査

問8 転出するきっかけとなった方（回答は1つ）

他市区町村へ転出するきっかけとなった方について、「自分自身」が最も高く 62.0%、次いで配偶者が 33.5%であった。

設問	選択肢	全体	割合
主なきっかけの方	自分自身	152	62.0%
	配偶者(妻または夫)	82	33.5%
	子ども	2	0.8%
	自分の親または配偶者の親	3	1.2%
	その他	6	2.4%
	無回答	0	0.0%
	計	245	100.0%



問9 転出することになったきっかけ（※複数回答可）

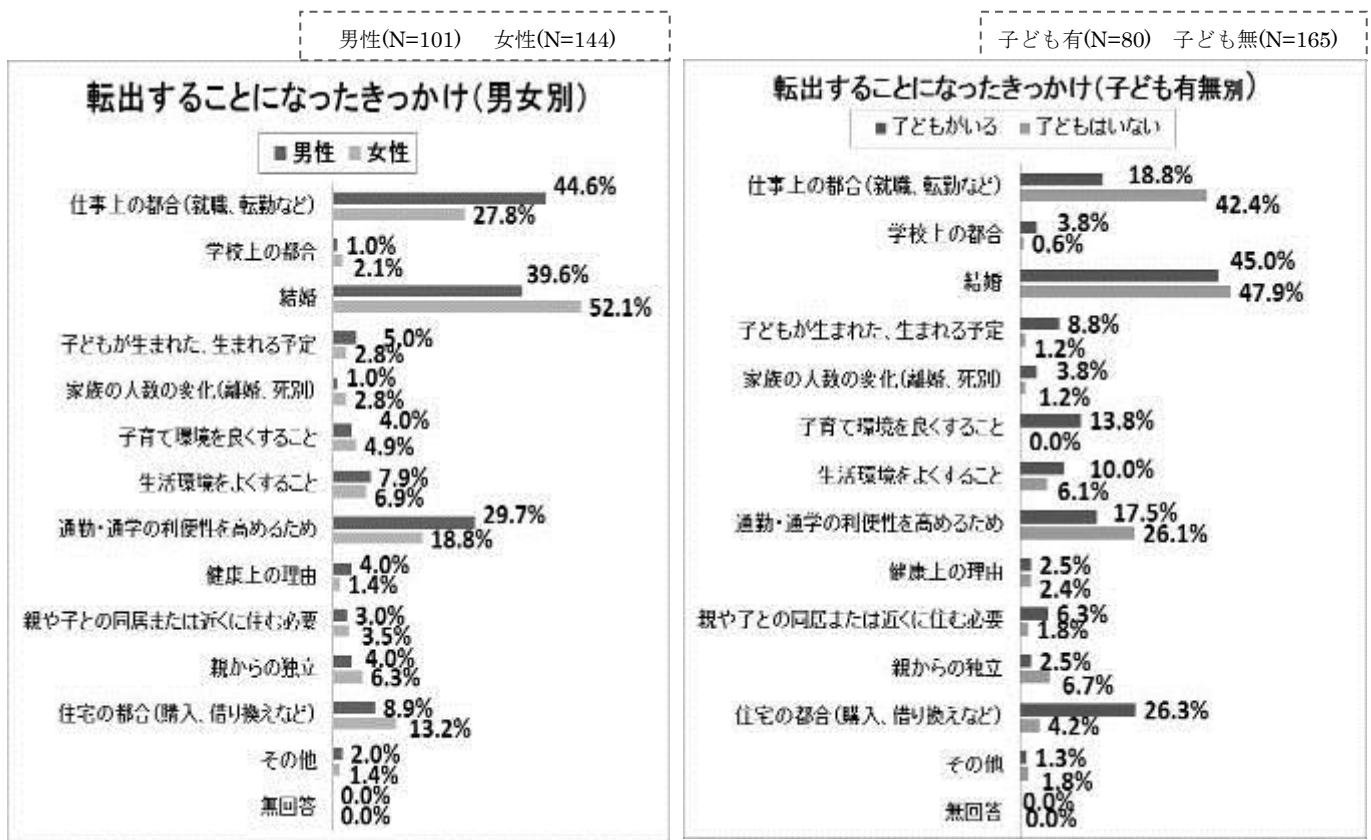
転出することになったきっかけは、「結婚」が最も高く 46.9%、次いで、「仕事上の都合（就職、転勤など）」が 34.7%、「通勤・通学の利便性を高めるため」が 23.3%、「住宅の都合（購入、借り換えなど）」が 11.4%で続いている。

設問	選択肢	総数	割合
転出することになったきっかけ	仕事上の都合(就職、転勤など)	85	34.7%
	学校上の都合	4	1.6%
	結婚	115	46.9%
	子どもが生まれた、生まれる予定	9	3.7%
	家族の人数の変化(離婚、死別)	5	2.0%
	子育て環境を良くすること	11	4.5%
	生活環境をよくすること	18	7.3%
	通勤・通学の利便性を高めるため	57	23.3%
	健康上の理由	6	2.4%
	親や子との同居または近くに住む必要	8	3.3%
	親からの独立	13	5.3%
	住宅の都合(購入、借り換えなど)	28	11.4%
	その他	4	1.6%
	無回答	0	0.0%
	計(回答総数)	363	-
	回答者数	245	



【2】転出者アンケート調査

- ・男女別にみると、男性は、「仕事上の都合」が最も高く 44.6%、次いで、「結婚」39.6%、「通勤通学の利便性を高めるため」29.7%と続いている。
- ・女性は、「結婚」が最も高く 52.1%、次いで、「仕事上の都合（就職、転勤など）」27.8%、「通勤・通学の利便性を高めるため」18.8%と続いている。
- ・子どもの有無別でみると、「子どもがいる」方は、「結婚」が 45.0%で最も高く、次いで、「住宅の都合（購入、借り換えなど）」26.3%、「仕事上の都合（就職、転勤など）」18.8%と続いている。
- ・「子どもはいない」方も、「結婚」が 47.9%で最も高く、次いで、「仕事上の都合（就職、転勤など）」42.4%、「通勤・通学の利便性を高めるため」26.1%と続いている。



【2】転出者アンケート調査

問10 転出先の市区町村

神奈川県内への転出が全体の76.3%、東京都内への転出は全体の21.6%であった。

市区町村別で見ると、横浜市が20.4%で最も高く、次いで、藤沢市と茅ヶ崎市が7.8%、川崎市7.3%、伊勢原市6.5%、秦野市5.3%と続いている。

・ 都県別

転出後の住所地	総数	割合
神奈川県	187	76.3%
東京都	53	21.6%
無回答	3	1.2%
その他	2	0.8%
計(回答数)	245	

・ 市区町村別（上位抜粋）

順位	市区町村	人数	割合
1	横浜市	50	20.4%
2	藤沢市	19	7.8%
2	茅ヶ崎市	19	7.8%
4	川崎市	18	7.3%
5	伊勢原市	16	6.5%
6	秦野市	13	5.3%
7	世田谷区	8	3.3%
8	相模原市	7	2.9%
8	大磯町	7	2.9%
10	品川区	6	2.4%
11	小田原市	5	2.0%
11	厚木市	5	2.0%
11	海老名市	5	2.0%
14	鎌倉市	4	1.6%
14	二宮町	4	1.6%
14	大田区	4	1.6%
17	横須賀市	3	1.2%
17	大和市	3	1.2%
17	綾瀬市	3	1.2%
17	寒川町	3	1.2%
17	無回答	3	1.2%

【2】転出者アンケート調査

問 1 1 転出先の市区町村を決めた理由（※複数回答可）

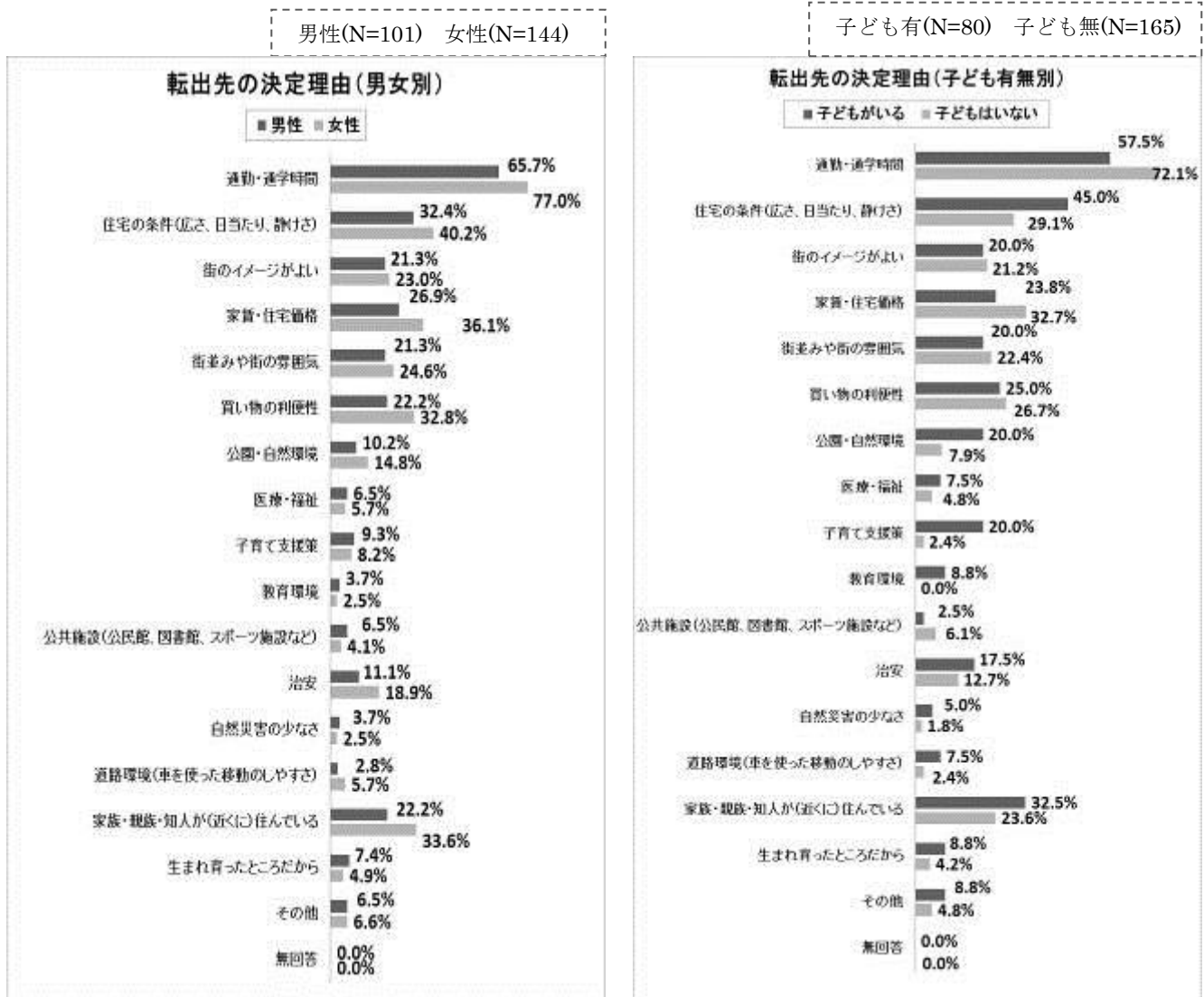
全体でみると、「通勤・通学時間」が67.3%で最も高く、次いで、「住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）」34.3%、「家賃・住宅価格」29.8%、「家族・親族・知人が（近くに）住んでいる」26.5%、「買い物の利便性」26.1%と続いている。

設問	選択肢	総数	割合
決定理由	通勤・通学時間	165	67.3%
	住宅の条件(広さ、日当たり、静けさ)	84	34.3%
	街のイメージがよい	51	20.8%
	家賃・住宅価格	73	29.8%
	街並みや街の雰囲気	53	21.6%
	買い物の利便性	64	26.1%
	公園・自然環境	29	11.8%
	医療・福祉	14	5.7%
	子育て支援策	20	8.2%
	教育環境	7	2.9%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設など)	12	4.9%
	治安	35	14.3%
	自然災害の少なさ	7	2.9%
	道路環境(車を使った移動のしやすさ)	10	4.1%
	家族・親族・知人が(近くに)住んでいる	65	26.5%
	生まれ育ったところだから	14	5.7%
	その他	15	6.1%
	無回答	0	0.0%
	計(回答総数)	718	293.1%
	回答者数	245	



【2】転出者アンケート調査

- ・ 男女別でみると、「家族・親族・知人が（近くに）住んでいる」が男女の割合の差が最も大きく、女性の割合が11.4ポイント高くなっている。
- ・ 子どもの有無別でみると、「子育て支援策」や「住宅の条件（広さ、日当たり、静けさ）」、「公園・自然環境」が子どもの有無による差が大きく、「子どもがいる」方の割合が高くなっている。また、「通勤・通学時間」も子どもの有無による差が大きく、「子どもはいない」方の割合が高くなっている。

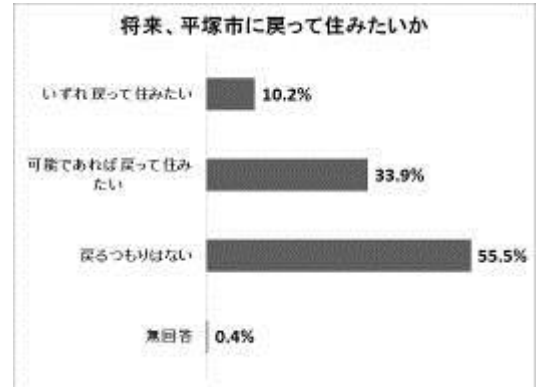


【2】転出者アンケート調査

問12 将来、平塚市に戻って住みたいか

「いずれ戻って住みたい」と「可能であれば戻って住みたい」と答えたUターン意向のある方は、44.1%となっている。

設問	選択肢	総数	割合
将来、平塚市に戻って住みたいか	いずれ戻って住みたい	25	10.2%
	可能であれば戻って住みたい	83	33.9%
	戻るつもりはない	136	55.5%
	無回答	1	0.4%
	計	245	100.0%



問13 どのような状況になれば平塚市に戻って住みたいか

(N=108 問12で「いずれ戻って住みたい」「可能であれば戻って住みたい」方が回答)

設問	選択肢	総数	割合
どのような状況になれば平塚市に戻って住みたいか	平塚市の近くに就職・転勤・転職できたら	43	39.8%
	子どもが就学・進学したら	2	1.9%
	結婚したら	2	1.9%
	親との同居、または近くに住むことになったら	28	25.9%
	親との同居、または近くに住む必要がなくなったら	5	4.6%
	希望に合う住宅が見つかったら	20	18.5%
	その他(問14 自由記述)	7	6.5%
	無回答	1	0.9%
	計	108	100.0%



問14 どのような状況になれば平塚市に戻って住みたいか (問13以外 自由記述)

■主な理由

- ・ 定年退職後に平塚市に戻って住みたい。
- ・ 子どもが産まれたら平塚市に住んで、子育てしたい。
- ・ 他の市町村の子育て支援策と比較して、メリットが感じられれば
- ・ 小田急線方面へのアクセスが良くなったら
- ・ 夫が通勤時間が長くなることを了承してくれたら
- ・ 治安が良くなったら
- ・ 教育の質の向上、いじめがなくなる等、教育環境が良くなったら

【2】転出者アンケート調査

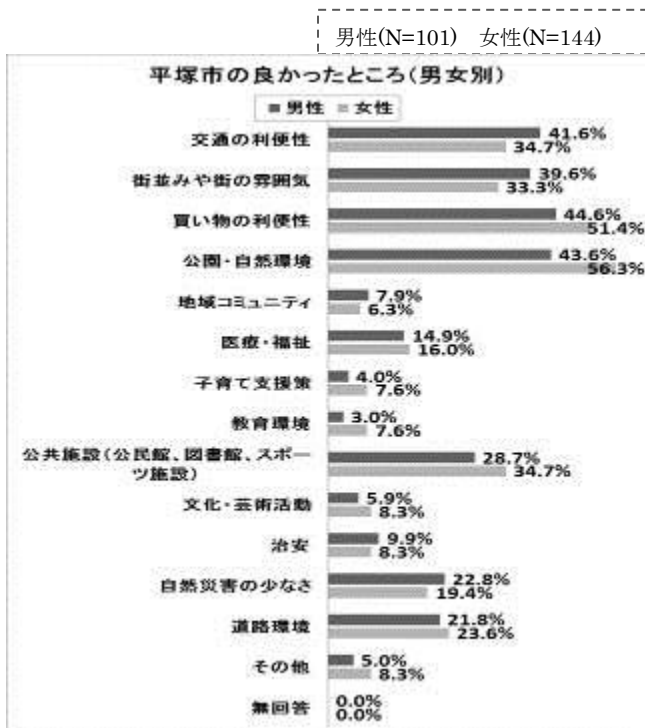
問15 平塚市に住んでいて良かったところ (※複数回答可)

全体でみると「公園・自然環境」が51.0%で最も高く、次いで、「買い物の利便性」48.6%、「交通の利便性」37.6%、「街並みや街の雰囲気」35.9%、「公共施設（公民館、図書館、スポーツ施設など）」32.2%と続いている。

設問	良かったところ	総数	割合
良かったところ	交通の利便性	92	37.6%
	街並みや街の雰囲気	88	35.9%
	買い物の利便性	119	48.6%
	公園・自然環境	125	51.0%
	地域コミュニティ	17	6.9%
	医療・福祉	38	15.5%
	子育て支援策	15	6.1%
	教育環境	14	5.7%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	79	32.2%
	文化・芸術活動	18	7.3%
	治安	22	9.0%
	自然災害の少なさ	51	20.8%
	道路環境	56	22.9%
	その他	17	6.9%
	無回答	0	0.0%
	計	751	-
	計(回答者数)	245	



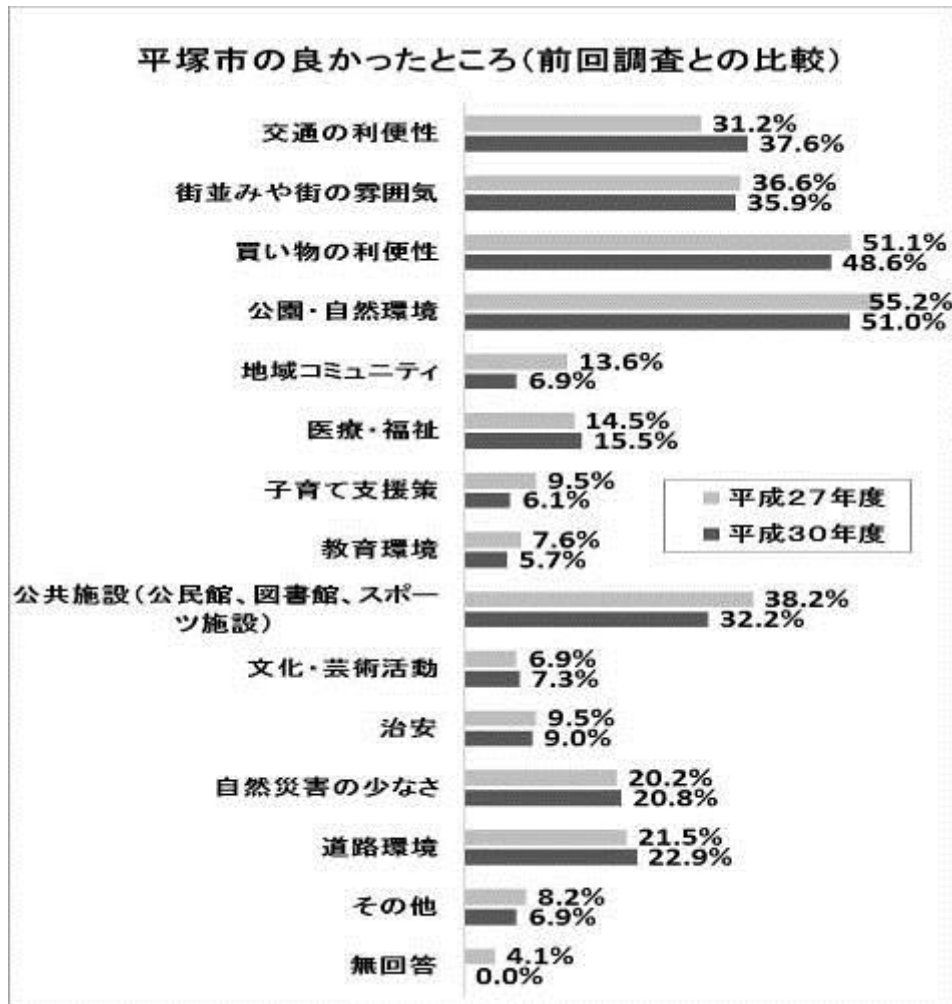
- ・男女別にみると、女性は「公園・自然環境」の割合が最も高くなっているが、男性は「買い物の利便性」の割合が最も高くなっている。
- ・子どもの有無別にみると、「交通の利便性」、「買い物の利便性」、「公園・自然環境」、「子育て支援策」が子どもの有無による差が大きく、「子どもがいる」方の割合が高くなっている。



【2】転出者アンケート調査

■平塚市に住んでいて良かったところの前回調査との比較

平成27年度の前回調査と比較すると、傾向は大きく変わらないが、「交通の利便性」の割合が6.4ポイント増加している一方、「地域コミュニティ」の割合が6.7ポイント減少している。



平塚市に住んでいて良かったところ(複数回答可)の総数は、前回調査より減少し、1人当たり3.2個から、3.1個になった。

	総数(無回答除く)	回答者数	一人あたり平均
平成27年度	1026	317	3.2
平成30年度	751	245	3.1

2】転出者アンケート調査

問15 平塚市に住んでいて悪かったところ (※複数回答可)

全体でみると「治安」が54.3%で最も高く、次いで、「交通の利便性」42.9%、「街並みや街の雰囲気」18.4%、「買い物の利便性」14.7%と続いている。

設問	悪かったところ	総数	割合
悪かったところ	交通の利便性	105	42.9%
	街並みや街の雰囲気	45	18.4%
	買い物の利便性	36	14.7%
	公園・自然環境	17	6.9%
	地域コミュニティ	19	7.8%
	医療・福祉	11	4.5%
	子育て支援策	21	8.6%
	教育環境	24	9.8%
	公共施設(公民館、図書館、スポーツ施設)	16	6.5%
	文化・芸術活動	7	2.9%
	治安	133	54.3%
	自然災害の多さ	23	9.4%
	道路環境	23	9.4%
	その他	12	4.9%
	無回答	0	0.0%
計	492	-	
	計(回答者数)	245	

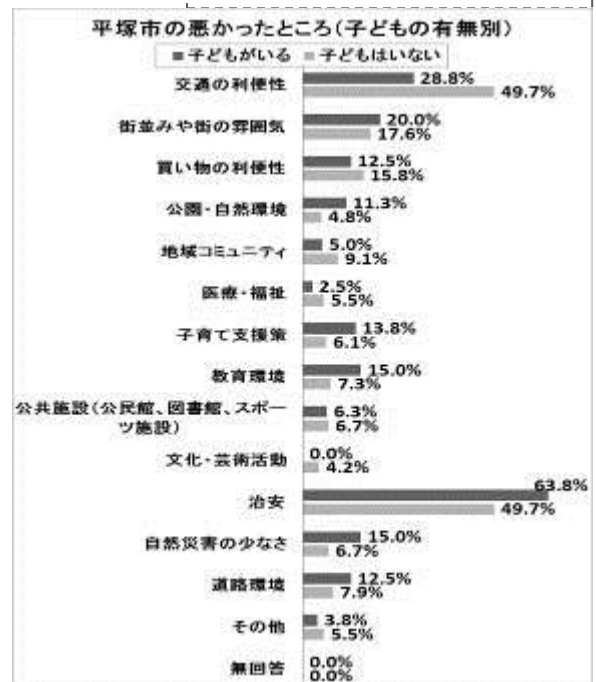


- ・男女別にみると、「治安」と「自然災害の多さ」を選択した割合は、男女差が最も大きくなっており、女性の方が男性よりも、安心安全に不安を感じていることがわかる。
- ・子どもの有無別では、「子どもがいる」方は、「治安」が悪いと63.8%が感じており他の選択肢と比べて非常に高い割合となっている。「子どもはいない」方は、「交通の利便性」と「治安」が49.7%と高い割合になっている。

男性(N=101) 女性(N=144)



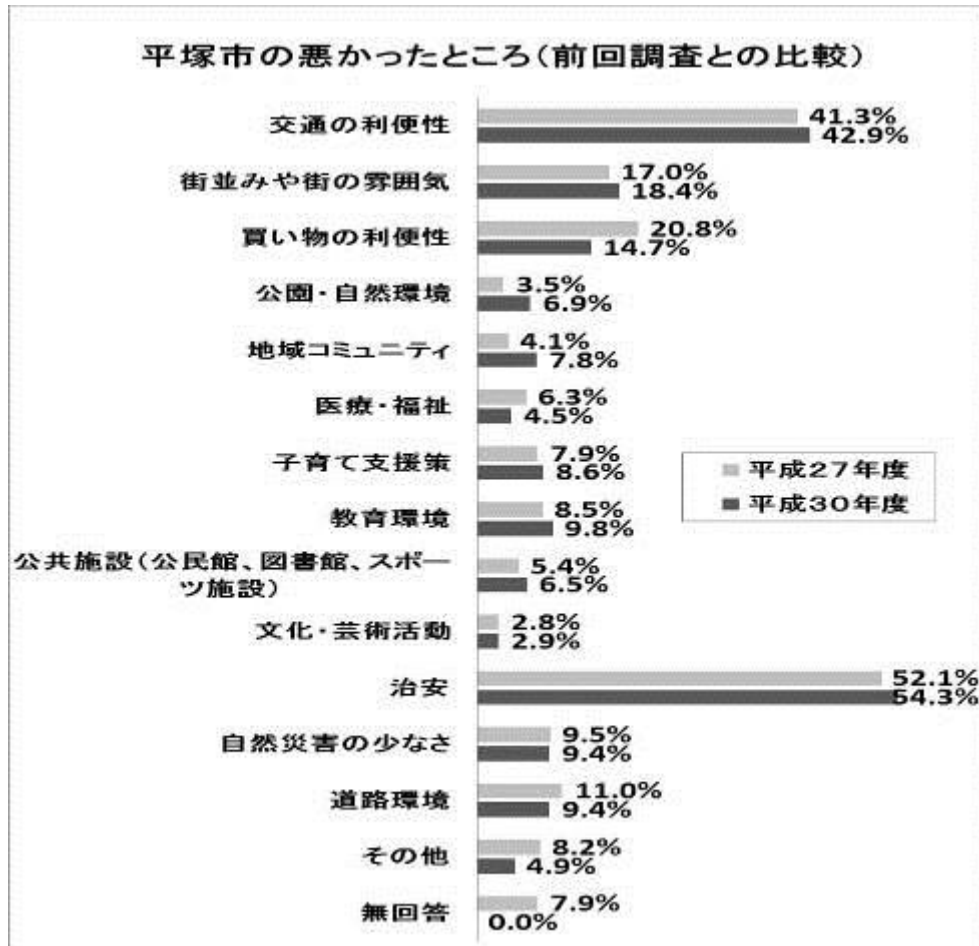
子ども有(N=80) 子ども無(N=165)



【2】転出者アンケート調査

■平塚市に住んでいて悪かったところの前回調査との比較

平成27年度の前回調査と比較すると、傾向は大きく変わらないが、「買い物の利便性」の割合が6.1ポイント減少している一方、「地域コミュニティ」の割合が3.7ポイント増加している。



平塚市に住んでいて悪かったところ(複数回答可)の総数は、減少しているが、1人あたり平均数は前回同様2.0個となっている。

	総数(無回答除く)	回答者数	一人あたり平均
平成27年度	629	317	2.0
平成30年度	492	245	2.0

【2】転出者アンケート調査

問16 平塚市の良かったところ（自由記述）

■「公園・自然環境」が良かったと答えた方の主な理由

- ・海、山、川など自然が豊かで住みやすく、自然に囲まれて成長できた。
- ・総合公園が広く、整備されていて子どもにとって素晴らしい環境であった。

■「買い物の利便性」が良かったと答えた方の主な理由

- ・大型商業施設が複数あり、スーパー等がたくさんあるので、近場（市内）で全ての物がそろろう。

■「交通の利便性」が良かったと答えた方の主な理由

- ・電車の本数が多く、朝の始発電車もあるところ
- ・都内や横浜まで電車一本で行くことができ、また、鎌倉や箱根、熱海等の観光地にも近いところ
- ・バスの便が多く、また早朝から夜まで運行していた。

■「街並みや街の雰囲気」が良かったと答えた方の主な理由

- ・街の雰囲気が静かでゆったりしていて、人が温かい。

問17 平塚市の悪かったところ（自由記述）

■「治安」が悪かったと答えた方の主な理由

- ・駅周辺の治安
- ・自転車等の盗難にあった。

■「交通の利便性」が悪かったと答えた方の主な理由

- ・バスの本数が少なく、また時間通りに来ないことが多かった。
- ・鉄道の駅が平塚駅しかなく、東海道線が止まってしまうと仕事等に通うのが大変だった。

